

5日目 7月17日

会 場： 県立浜山球場

第1試合	～2回戦～																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
大 社	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	6	0		
出 雲	0	0	0	0	0	0	1	0	X							1	7	0		
(投手-捕手)																				
・ (大)	森山 - 石原																			
・ (出)	安藤 - 濱岡																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (大)	岡本、立花、服部																			
・ (出)	安藤																			
(審判) [球審] 城市	[一塁] 上手					[二塁] 野原					[三塁] 藤本邦									
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(大)	36	6	0	3	0	0	5	4	1	4	9	0			0	0	1	0	0	0
(出)	33	7	1	1	0	0	8	2	3	0	8	0			0	0	0	0	0	0

「出雲、風を味方に1点差の接戦制す！」

大会5日目浜山会場の第1試合は出雲地区の強豪校どうしの対戦となった。大社は前年夏の準優勝校で主戦として経験している選手が残る。出雲も16年に夏の島根県大会を制し甲子園出場経験がある。試合前から強い風が吹いており、風が試合のポイントとなった。

試合は両校得点圏に走者を置きながらも、得点を奪えない展開の投手戦となった。1回表、大社は盗塁を絡め2死2塁としたが4番立花が見逃し三振に倒れる。1回裏、出雲は2本の安打と四球で2死満塁としたが6番濱岡が内野ゴロに倒れる。その後3回まで両校とも2塁に走者を置くが後続が続かない展開が続いた。4回表、大社は先頭の4番立花が2塁打で好機を作る。しかし、三塁手へのゴロで進塁できず、1死1・2塁とするも連続三振に倒れてしまう。4回裏、出雲は2死から安打とボークで2塁とするが、後続が三振に倒れ得点出来ない。

後半に入り6回表、大社は四球と安打、犠打で1死2・3塁と千載一遇の好機を作る。しかし、7番大谷が捕手へのファールフライに倒れ、8番石原も外野フライで先制の機会を逃す。7回表、大社の1番岡本の大きなセンター方向への飛球は、この日ライトからレフト方向に強く吹き続けていた風のに阻まれ外野フライとなり、出雲はこの試合両校合わせて初めて三者凡退に抑える。すると、直後の7回裏、先頭の9番安藤のレフト線への打球は、風に乗り2塁打を放ち好機を得る。続く打者が犠打を初球で成功させ流れを繋げると、この日途中出場の2番坂根輝が初球を引っ張ると、これがライトへの犠飛となり先制に成功する。

先行された大社は、8回表に2死から2塁打で一打同点の場面を作り、6番藤江が直球を捉えるが二塁手正面のライナーとなり同点に追いつくことが、またも出来なかった。最後は脚を攣りながらも出雲先発の安藤が三者凡退に抑え、3回戦に駒を進めた。出雲は脱水症状で選手が倒れるなどの場面がありながらも、1回戦とは別人のような良い動きをしており、かなり気合いが入っていた。

